

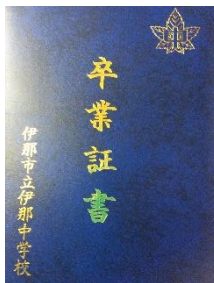


みねかえで しるし あお  
**峰楓 徽章と仰ぎ**

第10号

【文責 保科 潔(教頭)】

**春はまたやってくる** ~3年生が卒業 1,2年生は節目の年度末~



新型コロナウイルスの感染予防のため、出席者と内容の制限はあったものの、3月16日、3年生124名は、家庭の皆様、伊那市教育委員、本校職員、生徒会役員が見守る中、伊那中学校を卒業していきました。

卒業生の歌は「誕生(歌:中島みゆき)」。「この世に生まれてからの「これまで」の日々と「これから」の生き方、そして、出会う人との関係性やその人への感謝を語った歌です。式の最後、ステージ上で保護者席に向かって歌う3年生の姿や声は、どんな文章にも勝る、強いメッセージ性がありました。

さて、今日は在校生のみの3学期終業式がありました。



3学期終業式 校長講話より (\*一部を抜粋)



これは校長室にある金魚を飼っている水槽の写真です。2月のある日、撮影しました。それから2週間ほどして再び撮影したのがこの写真です。2週間の違いは、水槽の中の水の高さです。2週間で、水がどこかにいってしまいました。

そこで、ある日、校長室の掃除に来た3年生にこの写真を見せながら質問してみました。「2週間で水槽の水はどこに消えたのだろう?」すると、一人の3年生が次のように答えました。「多分、水槽の中の金魚が飲んだんだと思う」と。そこで、再び私は問い返しました。

「もし金魚が飲んだとしたら、どんなことをやったらその事実はわかるのだろうか?」

「そのために実験をしたら、どんな実験が考えられるかな?」

「金魚さん、金魚さん、水飲みましたか?」と問いかけても金魚は何も答えませんよね。

問いかけられた3年生はじっと考えながら、しばらくして私に答えてくれました。

「水槽の横に金魚を入れない同じ状態の水槽を置いて2週間観察してみればいいと思います。金魚が飲んだとしたら、そちらだけ水が減ると思います。」なるほど、2つを比較することで、金魚が水を飲んだという自分の予想が正しいかを推測することができそうですね。

そんな会話を聞いていたもう一人の掃除に来た生徒が話始めました。

「少しは金魚が飲むかもしれないけれど、金魚が飲んだだけじゃないと思う?」「じゃあ、どうして水減ったのかな?」

「蒸発したんじゃないかな?」

そこで私は問いかけました。

「蒸発って、水がお湯になって100度になって沸騰したら起きる現象じゃないの?」掃除に来た二人はしばらく考えて「沸騰しなくても水って蒸発するんじゃないかな?」「そんなことあるの?」「だって雨が降った後、水たまりの水って自然になくなるよ」「え、それは土にしみこんでいるんじゃないの?」「う〜ん」

\*裏面に続く

そこで私は次のように質問しました。「じゃあどういう実験をすれば、蒸発したのか調べられるのかを考えてみて？」問いかけられた彼は、「水槽に完全に蓋をすればいいんじゃないかな」と答えました。

今の話を少し整理してみます。

まず2つの写真を見比べて「あれ？」という疑問をもちました。これを“問いをもつ”と言います。その基本は「あれ？」「どうして？」と疑問に持つことがスタートになります。例えば登校中、「どうして生えている場所によって草花の種類は違うの？」ある日、ニュースを見て「女性の社会進出が進むと少子化が進むって聞いたけどそれって本当なのかな？」地震が起きたとき「科学は進歩して地震のメカニズムもある程度解明されているのに、どうして地震予知は難しいのだろうか？」社会科の時間に『関ヶ原の戦い』について勉強したけど、石田三成はどうやっても徳川家康に勝つことはできなかったのだろうか？」などなど。日常生活や日々の教科の学習の中には「なぜ？」がいっぱいあります。大事なことは、何かに出会った時、「なぜ？」と疑問に思う「その気づき」です。

次に「自分の解明したいことを明確に」します。

「水槽の水はどこに消えたのか」というように。これを“テーマ設定”といいます。さて、先ほどの校長室での会話を思い出してください。掃除に来た生徒は「金魚が水を飲んだんじゃないかな？」とか「水が蒸発したんじゃないかな？」と自分なりに予想をしました。これを“仮説を立てる”と言います。答えの予想をする訳です。そして、“答えを出すためにどんな手法をとればよいかを計画”します。先ほどの金魚の話では「条件を変えた水槽を並べて置いて、比較しながら観察する」ということになるのでしょうか。ここでは、本を調べたり、調査活動をしったりという情報収集も必要になります。

そして最後に、比較した実験を考察して、“自分の仮説が正しかったかを考察”します。この考察の中では、周りの人と議論する活動も必要になることもありますね。

この一連の流れで大事なことは、正しい答えをいっぱい知っていることではなく、自分なりに今説明した“問いをもち、テーマを見つけ、仮説を立てて、探究の手法を考え、自分なりに実験・調査などの情報収集をして、結論を導き出す”というステップを経験することなのです。さて、ここまでステップを踏んだらもう一つ踏みたいステップがあります。それは、自分の探究を“だれかに発表する”するということです。どうまとめれば相手に伝わるか、それは文章？図？グラフ？写真？はたまたパワーポイントなどなど。「プレゼンテーション力」といわれる力です。人に発表することを通して、もう一度自分自身が自分の探究を振り返ることもできます。難しい言葉で“メタ認知する”と言います。

今、お話をしたようなステップを踏んだ学習を「探究的な学習」といい、ここ伊那中では、それが皆さんの取り組んでいる“マイ チャレンジ”なのです。これからの世の中を生きていくための大事な力をつける学習が“マイ チャレンジ”です。来年は、探究学習「伊那中 マイチャレンジ」を より大事にしていきたいと考えます。“マイチャレンジ”は長期休業だけの課題ではありません。日々の教科の学習の中でも「なぜ」「どうして」という疑問からスタートした学習をしてほしいと願います。そして、日々の学習の中で、例えば、友の考えと自分の考えを比較したりしながら「似ているところ」「違い」を見つけ、「友と議論・意見交換する」そんな授業での学習をいっぱいしてほしいのです。これからの時代、自ら取り組むべき課題を見出し、答えのない課題に対して自分自身で取り組んでいく そんな力が必ず必要になります「伊那中 マイチャレンジ」はそんな力をつけるための“未来に結びつく学び”です。

1,2年生の皆さん、そんな学びをここ伊那中で実践してほしい そんなことを願い本日の校長の話を終わりにします。



制限あり、卒業式に参加できない1,2年生は「3年生を送る会」で、卒業生への感謝とこれからの生活へのエールを歌で伝えました。

### お知らせ

(1) 春休み中に生徒のことで連絡をする場合は、下記の通り対応します。ご確認の上、ご理解とご協力をお願いいたします。

- ・平日の電話対応 8:30～17:00。これ以外の時間帯や休日の電話対応はできません。
- ・事故や生徒指導上の内容で、緊急に学校へ連絡する必要がある場合は、以下の連絡先をお願いします。

【伊那中学校緊急連絡電話】 070-4127-6087

(2) 3月22日～29日の平日9:00～16:00で寺子屋と図書館を開放します。

ご家庭や地域の皆様、学校教育活動に対して、多岐にわたりご理解とご協力いただきありがとうございました。来年度も引き続き、伊那中学校や伊那中生をよろしく願いいたします。(伊那中学校職員一同)